

協働事業報告書

事業の名称	Betsy O' Hara 写真展		
団体名・氏名	夙川自治会	関係課(G)名	景観まちづくりグループ
事業費	499,480円	市の負担額	100,000円

事業の目的及び内容	<p>(目的) 夙川地区では、山手幹線の開通などに伴うマンションの増加や世代交代などにより、地区外から転入した新たな住民が増え、新旧住民間のコミュニティ形成、およびまちづくりに関する意識向上が課題となっている。比較的新しい住民にも地域の歴史を知ってもらうことは地域への愛着を生み、まちづくりへの参加やコミュニティの形成につながる重要な取り組みと考えている。</p>	
	<p>(内容) 地域でよく知られている夙川駅前のクリスマスツリーのきっかけとなったベティ・オハラさんの写真展開催により、地区の住民が地域の歴史を知り、地域への愛着を抱くために効果的な事業です。また、景観まちづくりグループで行っている「西宮まちなみ発見クラブ」の活動や、今年度開催予定の今昔写真展を合わせてPRする。</p>	
	<p>(市民活動団体等の役割) 会場手配、写真パネル作成作業、地域内公報(ポスター掲示、チラシ配布)、会場設営、開催中運営、写真所有者との連絡調整など</p>	<p>(市の役割) ポスターおよびチラシデザイン、公報活動協力(市政ニュース、市ホームページ、さくらFM等でのPR。公共施設へのポスター掲示およびチラシ設置等)、会場設営協力 など</p>

	市民活動団体等	市
協働事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の大成功、大反響は、西宮市の広報活動、運営上のアドバイス、援助の賜物である。 ・市との協働による、まちづくり、コミュニティ形成の大きな成果があった。 ・海外との交渉、連絡を含めて、3年近くかかった事業であるが、市との協働により、事業が円滑に実施できることとなったことは大きな成果である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで当グループで行ってきたパネル展での実績をはるかに上回る 2,800 人という来場者数と、受付を担当された方の案内により、市の展示を数多くの方に広報できた。また、展示内容(写真の撮影場所など)について後日問い合わせがあるなど、2 次的な効果も生まれている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・来場者から、引続き写真展の開催や、写真集の発行等が要望として多くあったが、今後この行事をどの用にフォローしていくかの課題も残った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般紙に掲載されたことによる宣伝効果が高く、市のホームページ、市政ニュースだけに掲載する従来の広報手段を見直す必要性を感じた。

注1 事業実施が確認できる資料(写真、新聞記事、作成したチラシ、パンフレット等)を添付してください。

注2 印の箇所は関係課(G)で記入します。

自 己 評 価 書 (夙 川 自 治 会)

事業の名称	Betsy O'hara 写真展 - いちアメリカ人の目から見た 1948-1954 年の日本 -	
団体名・氏名 関係課(G)	夙川自治会 会長 柴田隆 景観まちづくりグループ	
自己評価欄 (該当する選択肢に をつけてください。)		
1. 計画どおりに 実施できたか	1. できた	主な理由 (左記で 3, 4 を回答した場合に記入)
	② 概ねできた	
	3. あまりできなかった	
	4. ほとんどできなかった	
2. 事業実施によ り期待した成果を 上げることができ たか	① 期待どおり	主な理由 (左記で 3, 4 を回答した場合に記入)
	2. 概ね期待どおり	
	3. あまりなかった	
	4. ほとんどなかった	
3. 協働で事業実 施した効果はあっ たか	① 非常にあった	主な理由 ・チラシ、ポスター、会場パネル製作にあたり、 関係部局のアドバイス、協力、援助を頂けたこと が有難かった。 ・市の広報活動協力 (市政ニュース、ホームペー ジ、公共施設へのポスター掲示) を受けることが できた。 ・写真展の趣旨にマッチした、市の掲示パネルに も来場者の関心を多く集めることができた。
	2. あった	
	3. あまりなかった	
	4. ほとんどなかった	
4. その他、評価 すべき点、反省す べき点	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣、京阪神にとどまることなく遠くは東京、九州等からの来場者も多くあり、予想をはるかに超える大きな反響、共感を呼ぶことができた。 (事前に写真展開催について大手新聞各社が採り上げて頂けたことが大盛況につながる一因となった。 メディアによる P R 効果) ・会場で古き友との 50 数年振りの再会があったり、この機会をとらえての小学校の同窓会開催があったりと、生まれ育った地域への愛着をよみがえらせ、50 ~ 60 年前の姿を振り返る機会となった効果は大きかった。 ・一方で予想を大幅に上回る来場者 (延 2,800 人) に運営上で想定外のミスが発生したことも反省材料の一つ。 	

自己評価書（景観まちづくりグループ）

事業の名称	Betsy O'hara 写真展 - いちアメリカ人の目から見た 1948-1954 年の日本 -	
団体名・氏名 関係課(G)	夙川自治会 会長 柴田隆 景観まちづくりグループ	
自己評価欄（該当する選択肢に をつけてください。）		
1. 計画どおりに実施できたか	1. できた	主な理由（左記で 3, 4 を回答した場合に記入）
	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 概ねできた 3. あまりできなかった 4. ほとんどできなかった	
2. 事業実施により期待した成果を上げることができたか	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 期待どおり	主な理由（左記で 3, 4 を回答した場合に記入）
	2. 概ね期待どおり 3. あまりなかった 4. ほとんどなかった	
3. 協働で事業実施した効果はあったか	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 非常にあった	主な理由 これまで当グループで行ってきたパネル展での実績をはるかに上回る 2800 人という来場者数と、受付を担当された方の案内により、市の展示を数多くの方に広報できた。また、展示内容(写真の撮影場所など)について後日問合せがあるなど、二次的な効果も生まれている。
	2. あった 3. あまりなかった 4. ほとんどなかった	
4. その他、評価すべき点、反省すべき点	一般紙に掲載されたことによる宣伝効果が高く、市のホームページ、市政ニュースだけに掲載する従来の広報手段を見直す必要性を感じた。	